

(様式1)

学校番号 (小・中 040)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(積志小学校) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・学校のニーズに合った学校支援ボランティアの充実
- ・地域への周知と協力体制の確立
- ・ボランティアとの連絡ツールの確立
- ・ボランティア名の決定(マスコットキャラクター、ワッペンなどの作成)

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった

(理由)

校長より「学校経営の基本理念」「学校教育目標」「実現するための力(つよい子、みとめあう子、しんけんな子)」などの説明を受け、目指す学校像を理解することができた。学校運営は、学校だけでなく地域や家庭も役割を明確にし、機能することが大切である。学習ボランティアは、教師と話し合い効果的な活用を図る必要がある。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった

(理由)

教職員との話し合いや、子供たちとの意見交換や交流の場あり、先生や子供たちの願いや困りごとなど直接聞くことができ、大変良かった。今後も続けていくことが大切だ。どんな手助けや支援が必要としているか具体的に考えるきっかけとなり、委員間でも熟議を重ね学校支援が明確になってきた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった

(理由)

・ボランティアの活動は、メンバーも増えて充実してきたが、情報発信については、具体的な良案がないので、十分とは言えないと感じる。地域への発信をどのようにするかは難しい問題だと思うので、引き続き考えていきたい。
・協議会での協議結果をPTA役員の本部委員会で情報発信した。来年度以降、協議結果を実行可能か、PTA役員内で協議を進めていきたい。
・学校運営協議会の認知がまだ低く情報発信ができていないので、検討の必要がある。地域が学校に関心をもち、育てる雰囲気での熟議ができなかった。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・「子供たちが学校へ行くのが楽しいと思う」学校を目指す
- ・「つ・み・し」の子の育成
- ・学校、家庭、地域の距離を近づける
- ・地域への周知と協力体制の確立
- ・学校支援ボランティアの充実